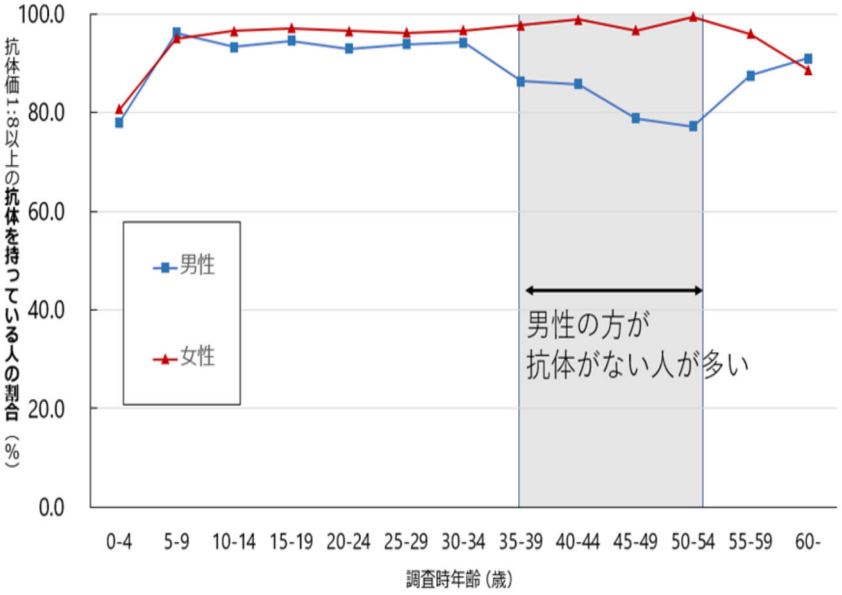
Hand Hygiene
手洗王
発行：感染制御部
ICT Monthly
no. 287
2020.6

あなたのパートナーは大丈夫？風疹ワクチンで未来を守ろう！！

麻疹風疹混合ワクチンの接種率上昇に伴い、風疹は子供たちの間ではずいぶん報告数が少なくなってきました。しかし、現在では、風疹は成人の間で流行することが大きな問題となっています。2019年に報告のあった風疹患者のうち、90%以上が20歳以上の成人の症例でした。いまや、**風疹は「成人の感染症」**なのです。成人に風疹がかかりやすい理由としては、風疹に対する免疫（抗体）を持っていない人が多いことが挙げられます。図1のように2018年度の調査では、30歳代後半～50歳代前半のまさに「働き手世代」の男性は、同年代の女性と比較して風疹に関する抗体を持っている人が少ないことが分かっています。

その結果、その年代の男性が風疹に罹患し、職場などで周囲の妊娠可能年齢の女性に感染を広げてしまうことが問題になっています。妊娠中の女性が風疹に感染すると、胎児に感染が及び、**「先天性風疹症候群」**を発症することがあるのです(図2）。

図1：年齢別風疹抗体価保有率



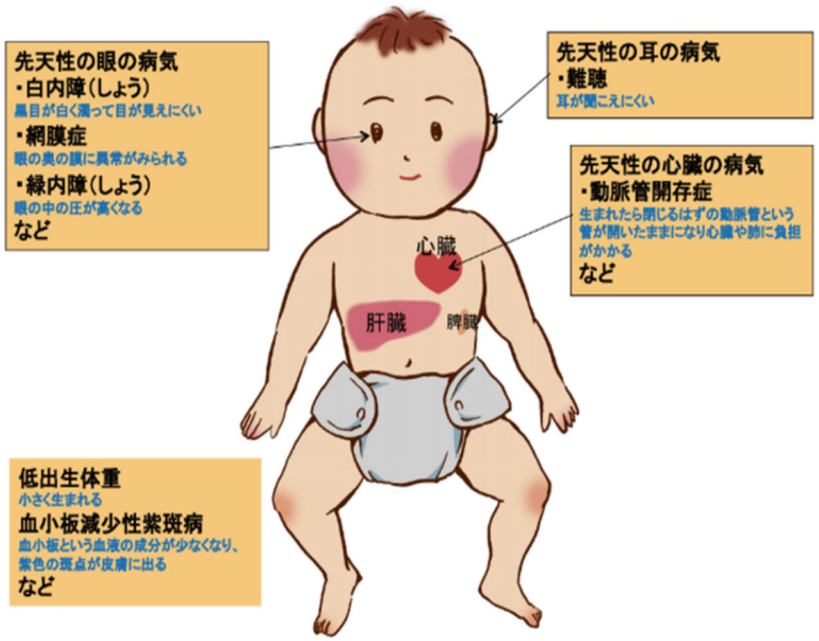
参照：国立感染症研究所「2018年度感染症流行予測調査」より

働き手世代の男性で風疹の免疫がない人が多いのは、ワクチンの接種制度の変化により、子供のころ、ワクチンを接種する機会がなかったことが原因です。

そのため、現在、**昭和37年度～昭和53年度生まれの男性**は市区町村から抗体検査と、必要時のワクチン接種が無料で受けられるクーポン券が配布されています。

当院では、院内感染防止の観点から、職員に対して平時から風疹を含めたワクチン接種による予防を進めています。しかし、あなたの周りの人やパートナーなどは大丈夫でしょうか。もし、周りに**昭和37年度～昭和53年度生まれの男性**がいる場合は抗体検査とワクチン接種を受けるように呼びかけましょう！！

図2：先天性風疹症候群の症状



参照：職場における風しん対策ガイドライン